視察成果~~報告~~書

令和 5 年10月10日

犬山市議会
議長　柴　田　浩　行　　様

議員名　小川清美

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和５年１０月３日(火) ～ 令和５年１０月４日(水) (1泊２日)
(2) 視　察　地	10月3日青森県藤崎町（社会福祉協議会） 10月4日青森県十和田市（アーツ・トワダ 野外芸術文化ゾーン）
(3) 視察の種類	常任委員会（民生文教委員会）
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	【藤崎町】 レクチャー；協議会事務局長 成田全弘(まさひろ)氏 町内に温泉施設＝ときわ温泉（社協運営）が出来たことにより、それまで選挙等でギクシャクしていた町民関係が和らぎ、町民が優しくなった。 ⇒住民福祉の観点からの連帯醸成に繋がったのでは。 1997年(H9年)に介護保険法が成立し、2000年に制度施行。 2012年(H24年)、介護サービス経営診断を行い、大変な赤字経営に気づいた。※平成30年度までの6年間に1億1,200万円の赤字<介護事業を甘くみていた？> 本俸10%カット、勤勉手当なし　でも追いつかない！ ⇒・役所体質の社協が介護事業を行うことの難しさを痛感 ・介護事業を廃止することは簡単だが、止めなかった (利用者や職員のことを考えると難しい判断) ↓ 経営改善への取組スタート ※ 経営コンサルの見解（2014年） 人件費の削減 人事考課制度の導入 職員の意識改革　→ 特に重要 正職員と面談実施（2014_2月） 正職員本俸10%カット（2014_3月） 経営コンサル及び社会保険労務士による指導

犬山市議会 受付 5.10.10 第

体質改善と意識改革のポイント
①人件費、運営費の見直し
②経営責任を問われる経営幹部へ
③人事考課制度(人事評価制度)の導入
資格を持ったら、給料に加算→　やる気のＵＰ
④職員の意識改革
⑤部署横断の連携を強化（会議、集いの場）
⑥経営分析シートの活用

新たな取り組み
訪問介護事業と通所介護事業（いずれも365日稼働）を実施

その他
・社協は、他の法人が行っている介護サービスとは「違う」という印象を持って貰うような対応を心掛けるよう指示
・藤崎町から社協への支援は次の2点以外は無い。
補助金　3,600万円（職員人件費）
委託料　5,100万円
・職員は、藤崎には社会福祉法人（介護事業所）が多く存在するため、危機感を持つことが必要
・社協は安泰とか、会長や事務局が何とかしてくれる　といった甘い考えは払拭することが肝要

【十和田市】
対応；議会→ 議長 石橋義雄氏、副議長 櫻田百合子氏
市役所→農林商工部商工観光課
※芸術・文化の部門であるが、当初の大きな目的として掲げられた「十和田市への集客」の関係から観光部門が対応している。

アーツ・トワダ（官庁街通りを野外の美術館と見立てたプロジェクト）について

⇒「住みたい」「住み続けたい」「訪れたい」と思える魅力あふれるまちの創出を目指す。
基本理念；現代アートによるまちの活性化、市民をはじめ来訪者の人々の幸せのため美術館を運営
→ 十和田市現代美術館（平成20年開館）
活動理念；1 アート体験等の展開により市民活動活発化
2 諸外国との交流を促し、市民文化を高める
3 国内外からの集客を図り、以って創造的産業振興により、地域経済を活性化

	建設費等の経緯費 ☆十和田市現代美術館（増築棟含む。）関係 土地購入費　1億9,700万円 工事費　8億8,800万円 アート作品　5億9,300万円 その他(備品、設計等)　2億2,300万円 ☆アート広場・ストリートファニチャー関係 土地購入費　1億4,100万円 工事費　1億200万円 アート作品　4億9,200万円 ○十和田市は、地域振興という観点では、芸術・文化という面で醸成基盤は無かったが、話題性の高い魅力的な空間を創出させようと考えた。 ○美術品の収集、保管、展示までには、長い期間と莫大な費用が想定されるため、現在生きている作家に制作してもらうという手法を用いることとした結果、現代美術という選択となった。 ○作家選定にあたっては、各国に参加を呼び掛けて行なった。市で作家や作品を指定して進めたものではない。 ○美術館開館から15年経過し、作品や建築設備の補修や更新費用が今後生じるため、計画的に進めていく必要がある。
(5) 犬山市に対する提言	【藤崎町】 組織を改革し、赤字から黒字化へ立て直すことが出来たのは、成田全弘氏という情熱を持ったキーマンが居たからと痛感。一方で、町(行政)からの支出金が相当額（補助金3,600万円、委託料5,100万円。他に町からの金銭的支援は一切なし。）あることも否めない。内容について、当市の現状や他市町の状況をしっかり分析する必要がある。（委員会にて予算要望の一つとして意見集約済）また、当市社協では、職員の意識改革を含めた研修検討を実施中であるが、キーとなる者の発掘や採用及びしっかりとしたコンサル、専門家の選定を進めるべき。 【十和田市】 当市よりも少ない人口（約58,500人）でありながら、美術館を核とした一連の取組は、当市には真似できない（アート作品に10億円超投入は到底無理）が、文化や芸術を切り口としたまち

	づくりは、人間性を高めるためには必要である。（歴史・文化の切り口はあるが･･･） そのためには、全市を対象として、薄く広く進めるよりも、拠点エリアを決めて、そこから全市に拡大していく手法が市民に浸透しやすいと考える。 また、アーツ・トワダの担当課が観光部署というのも驚きの一つ。おそらく当市ならば、文化スポーツ課が担当することになり、発想の自由度が低くなる恐れがある。よって、この件に限らず、事業内容によっては、課の壁を取り外し複数課で連携する業務体制を検討すべき。